

目 次

ニュートン略伝	1
原著者の序文	9
定 義	15
公理, あるいは運動の法則	29
第 I 編 物体の運動	47
第 I 章 以下の諸命題の証明に補助として用いられる諸量の 最初と最後の比の方法	49
第 II 章 求心力の決定	63
第 III 章 離心円錐曲線上の物体の運動	81
第 IV 章 与えられた焦点から楕円軌道, 放物線軌道および双曲線軌道を 見いだすこと	95
第 V 章 いずれの焦点も与えられないときに, どのようにして軌道を見 いだしたらよいか	105
第 VI 章 与えられた軌道において, 運動をどのようにして見いだしたら よいか	141
第 VII 章 物体の直線的上昇および下降	151
第 VIII 章 任意の種類 of 求心力に働かれつつ回転する物体の軌道の決定 ..	165
第 IX 章 動く軌道上における物体の運動; および長軸端の運動	173
第 X 章 与えられた面の上での物体の運動; および物体の振動	189
第 XI 章 求心力をもって互いに作用し合う物体の運動	207

第XII章 球形物体の引力	241
第XIII章 球形でない物体の引力	263
第XIV章 ある極めて大きな物体の各部分へと向かう求心力の作用を受け るとき極めて微小な物体の運動	277
第II編 抵抗を及ぼす媒質内での物体の運動	287
第I章 速度に比例して抵抗を受ける物体の運動	289
第II章 速度の自乗に比例して抵抗を受ける物体の運動	301
第III章 一部分は速度の比で、また一部分はその自乗の比で抵抗を受ける 物体の運動	331
第IV章 抵抗媒質内における物体の円運動	343
第V章 流体の密度および圧縮: 流体静力学	353
第VI章 振子の運動および抵抗	369
第VII章 流体の運動, および投射体に働く抵抗	399
第VIII章 流体中を伝わる運動	445
第IX章 流体の円運動	465
第III編 世界体系	479
哲学における推理の規則	481
現象	485
命題	491
月の交点の運動	556
一般注	647
訳者注	655
解説	891